

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 協力意向がある活動内容
 - (5) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (6) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況
 - (7) 仕事と仕事以外の生活の調和
 - (8) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

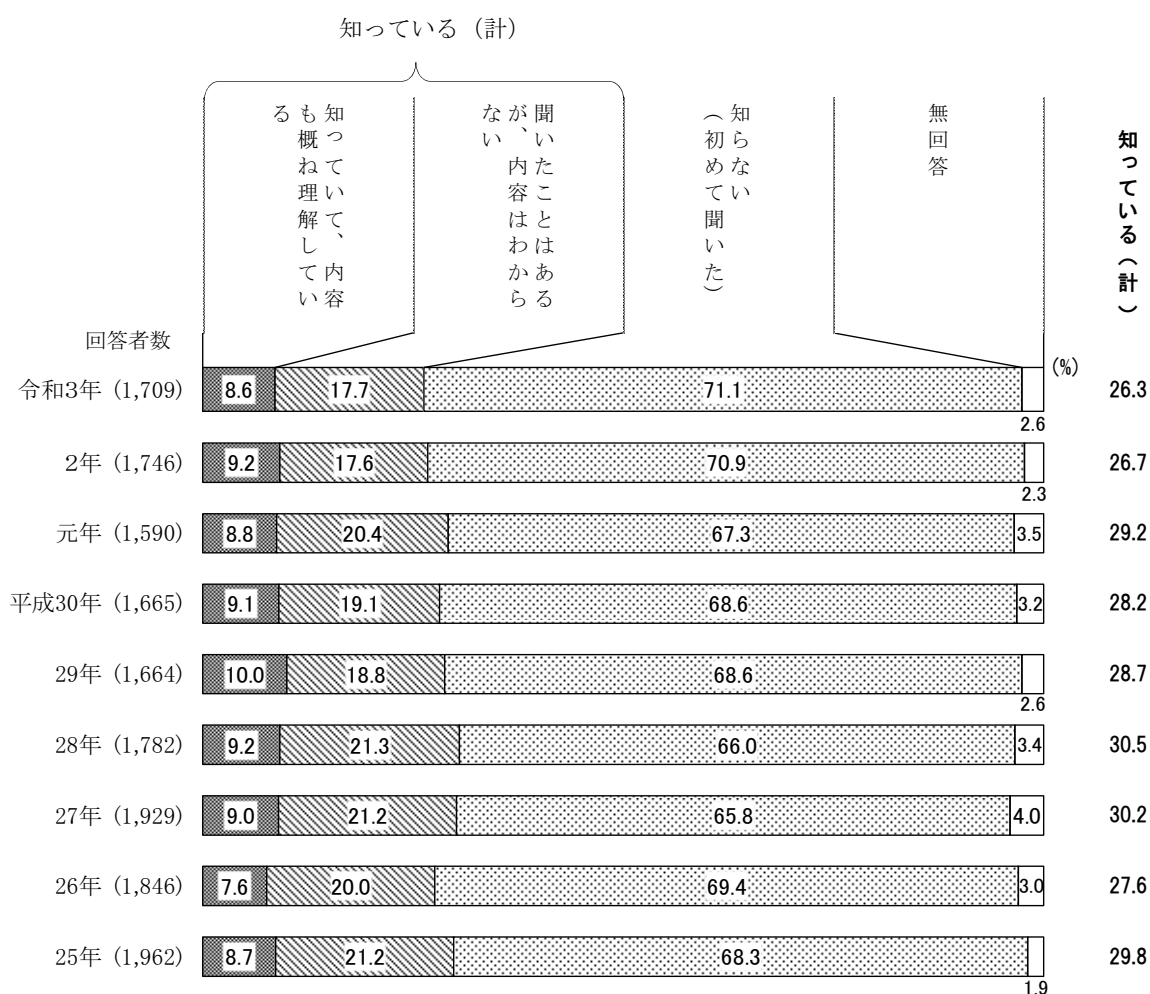
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■【知っている】は2割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が7割強

問44 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか
(○は1つだけ)。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



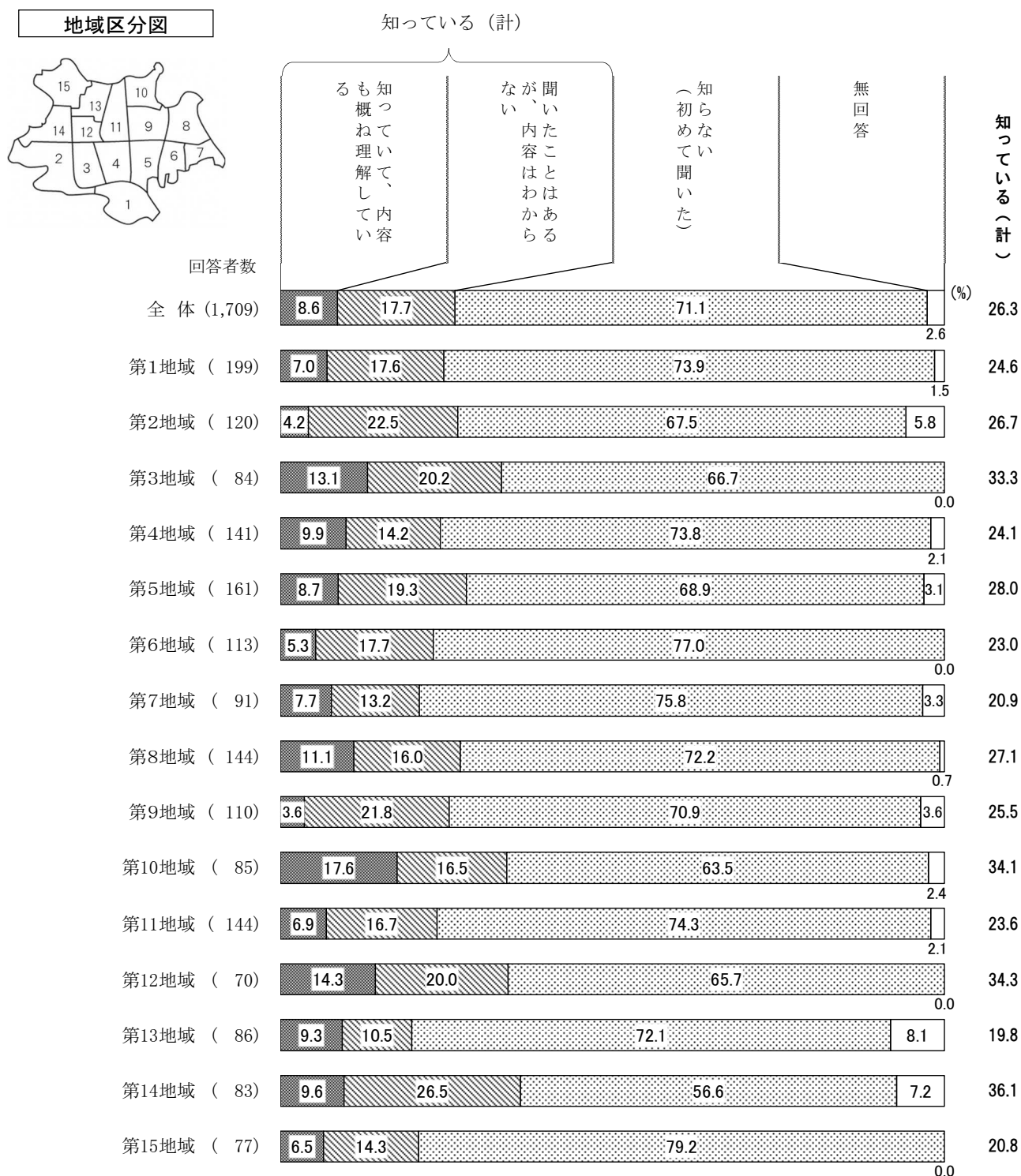
「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が8.6%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の17.7%を合わせた【知っている】は26.3%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は71.1%を占めている。

経年でみると、認知状況の回答割合に大きな変動はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【知っている】は第14地域で36.1%と最も高く、次いで第12地域（34.3%）、第10地域（34.1%）、第3地域（33.3%）が3割台前半と高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域で79.2%と最も高くなっている。

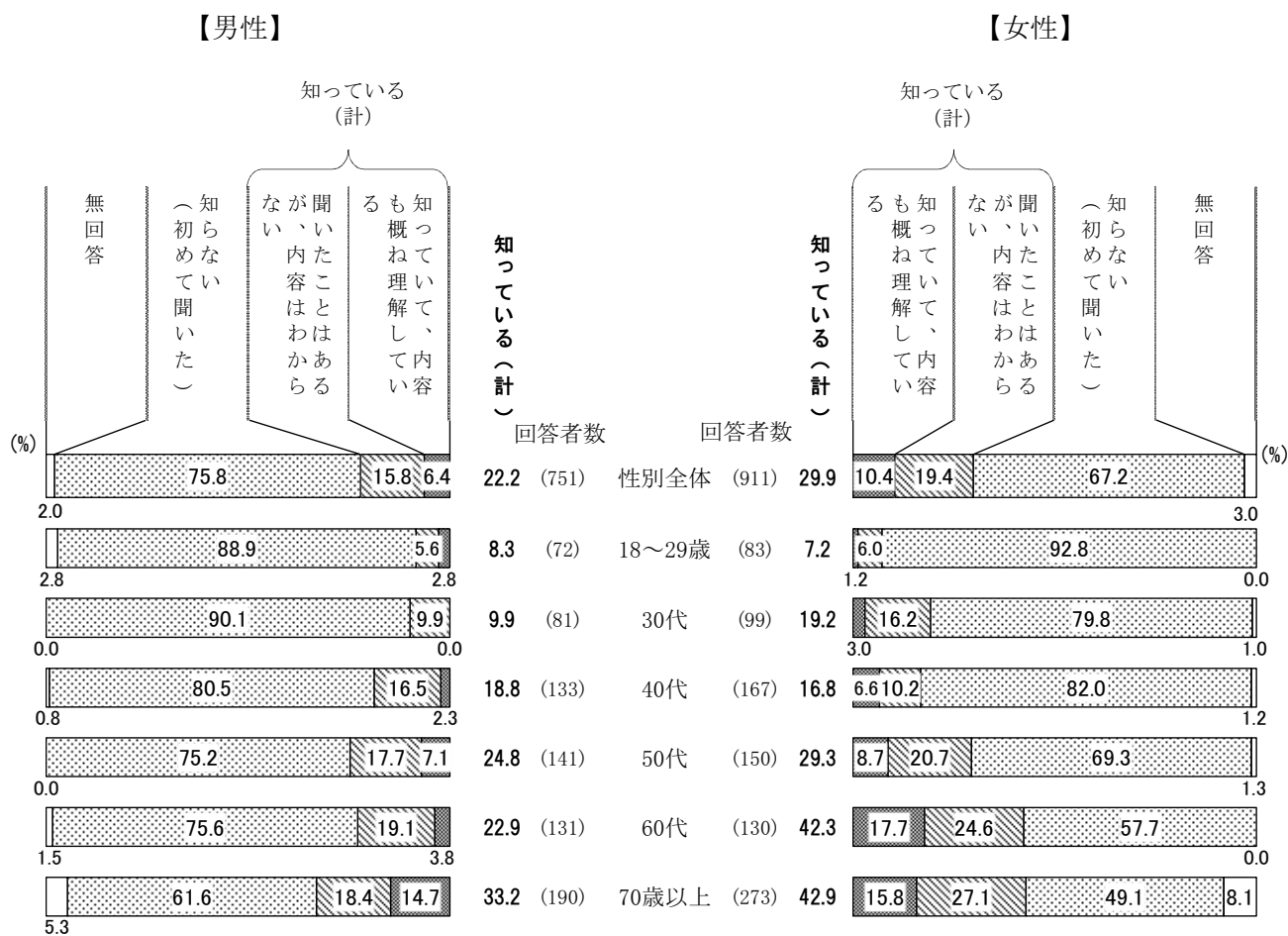
図9－1－2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



性別でみると、【知っている】は女性（29.9%）の方が男性（22.2%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性の60代（42.3%）と70歳以上（42.9%）で4割強と高く、次いで男性の70歳以上で33.2%と高くなっている。一方、男女の18～29歳と男性の30代で1割未満と低く、男女ともにおおむね年代が高くなるほど認知率も高くなる傾向がみられる。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



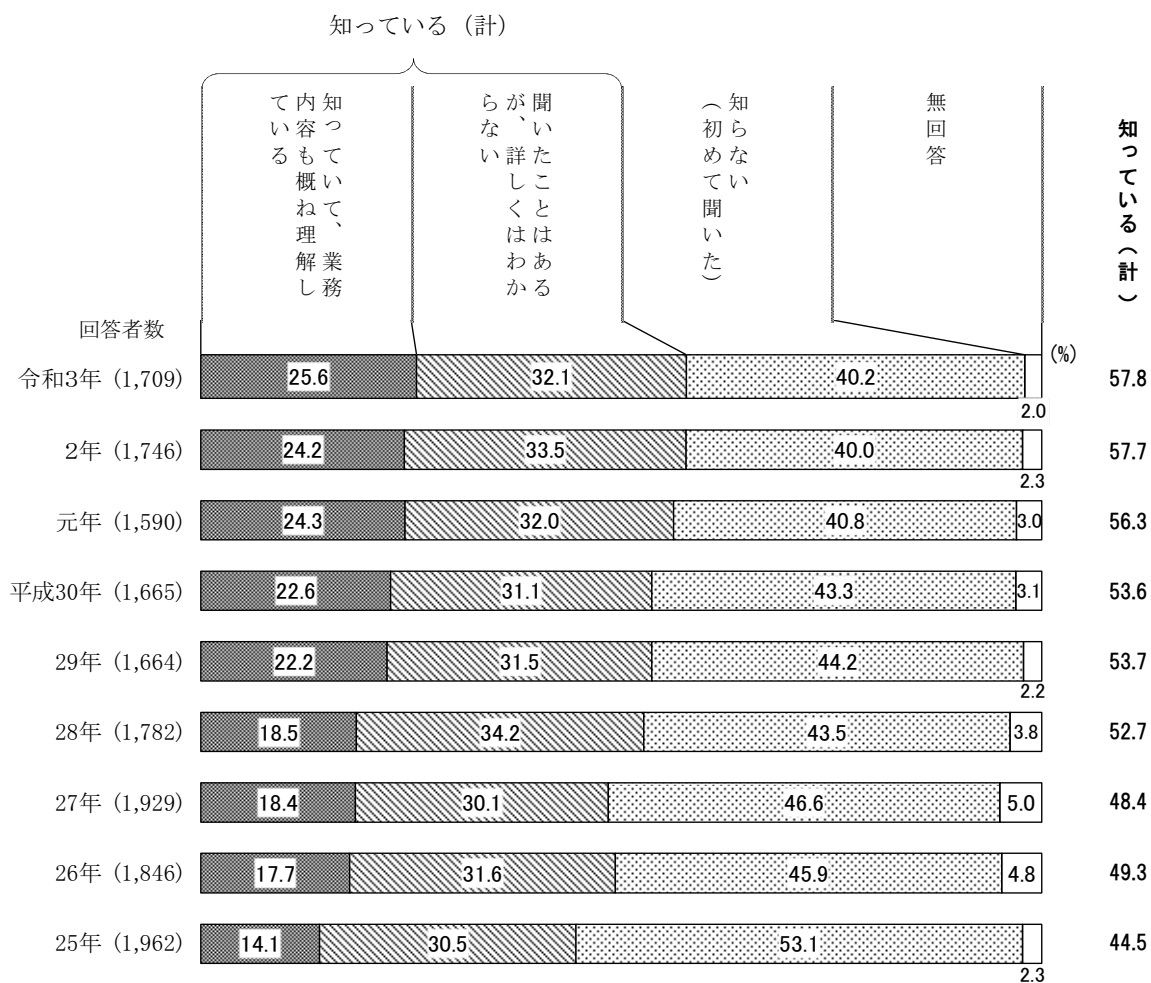
（２）「地域包括支援センター」の認知状況

■【知っている】は前回同様で5割台半ば超

問45 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。

図9－2－1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況

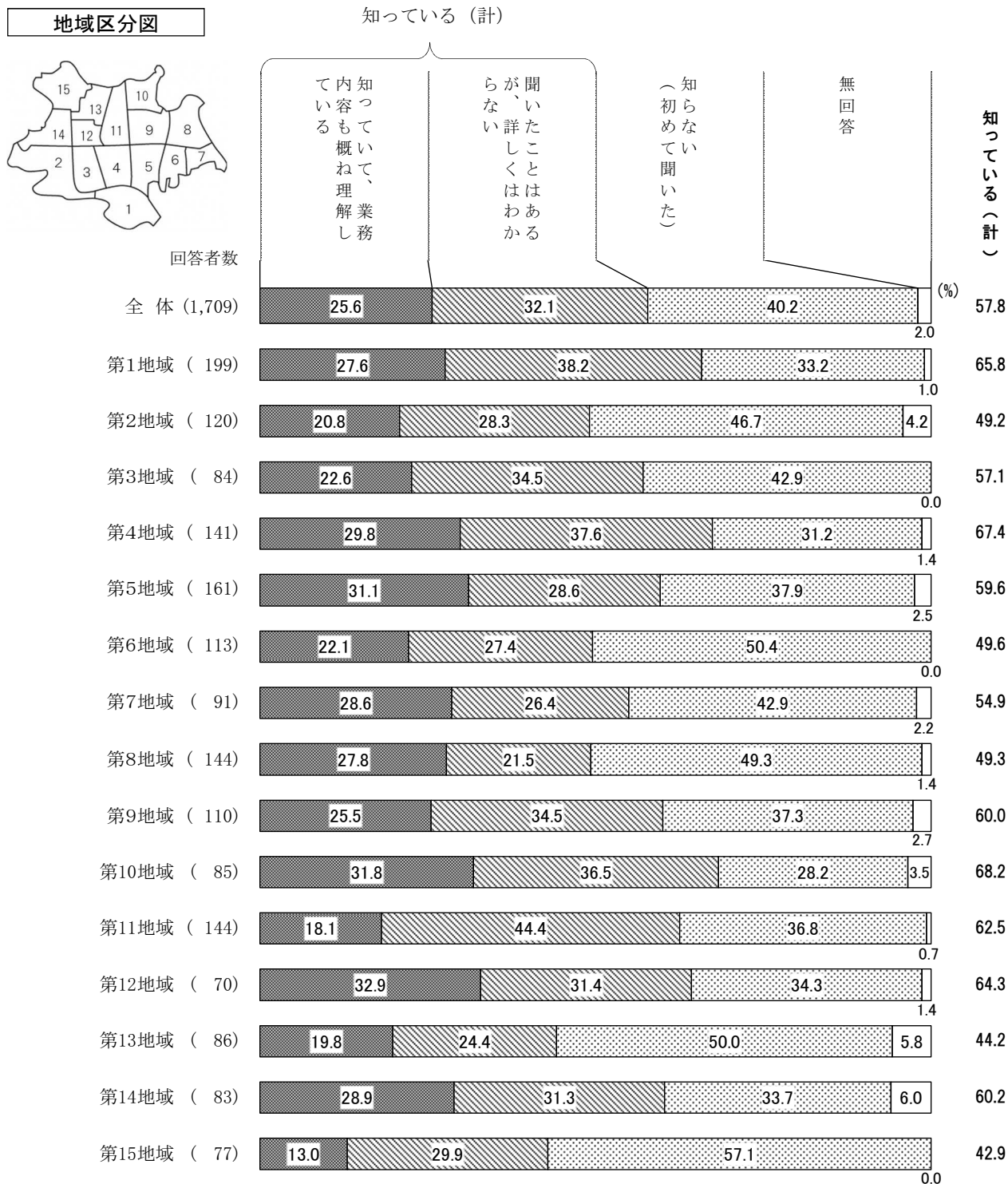


「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が25.6%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」（32.1%）を合わせた【知っている】は57.8%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は40.2%であった。

経年でみると、回答割合に大きな変動はみられないものの、【知っている】は漸増傾向となっている。

地域別でみると、【知っている】は、第10地域で68.2%と最も高く、次いで、第4地域（67.4%）と第1地域（65.8%）が6割台半ばで続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域で57.1%と高く、第13地域（50.0%）と第6地域（50.4%）で5割以上となっている。

図9-2-2 地域別／「地域包括支援センター」の認知状況

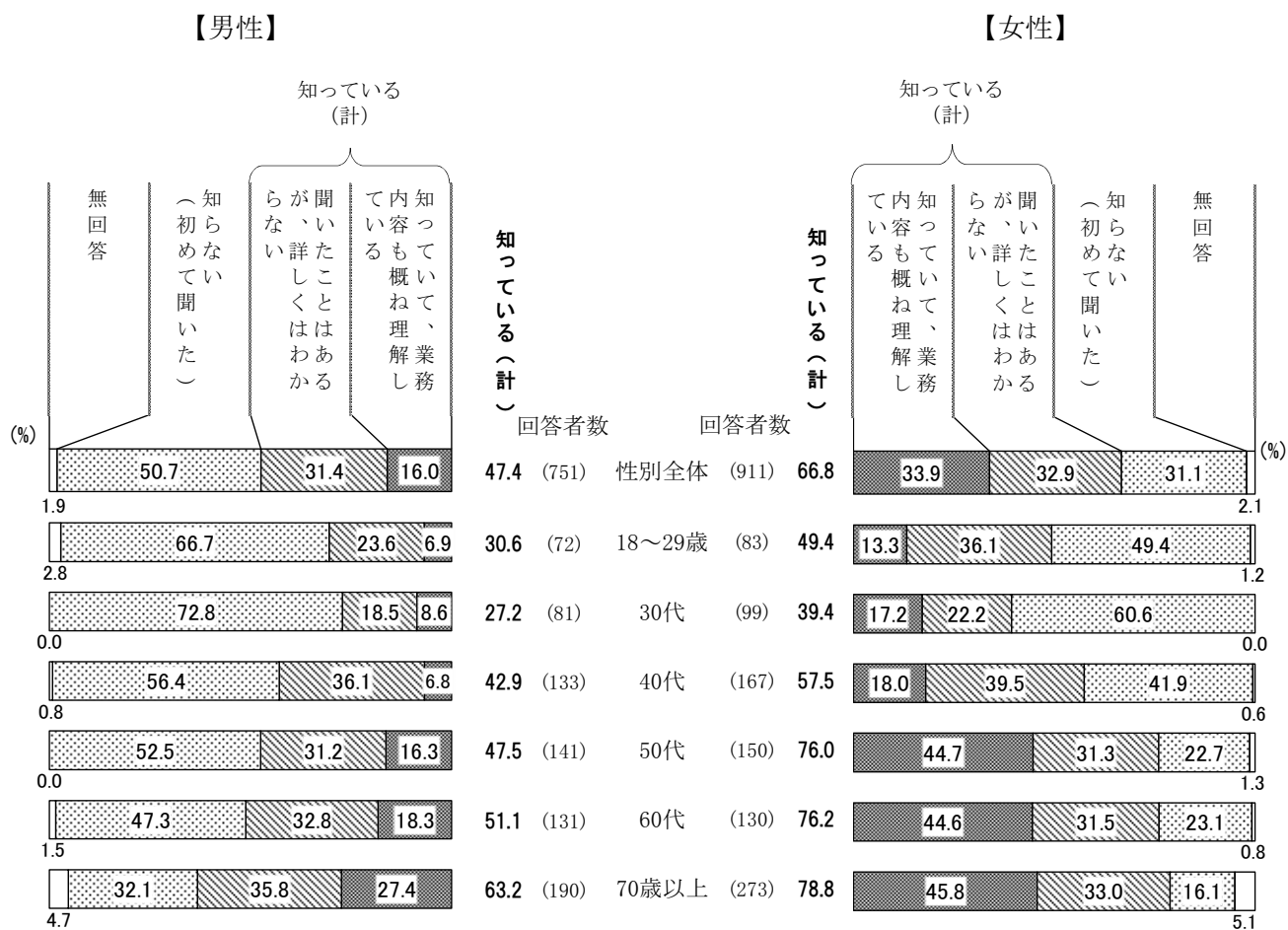


第3章 調査結果の分析〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性別でみると、【知っている】は女性（66.8%）の方が男性（47.4%）より19.4ポイント高く、男女差が大きくなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、女性の70歳以上で78.8%と最も高く、男女とも70歳以上で最も高く、30代で最も低くなっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況

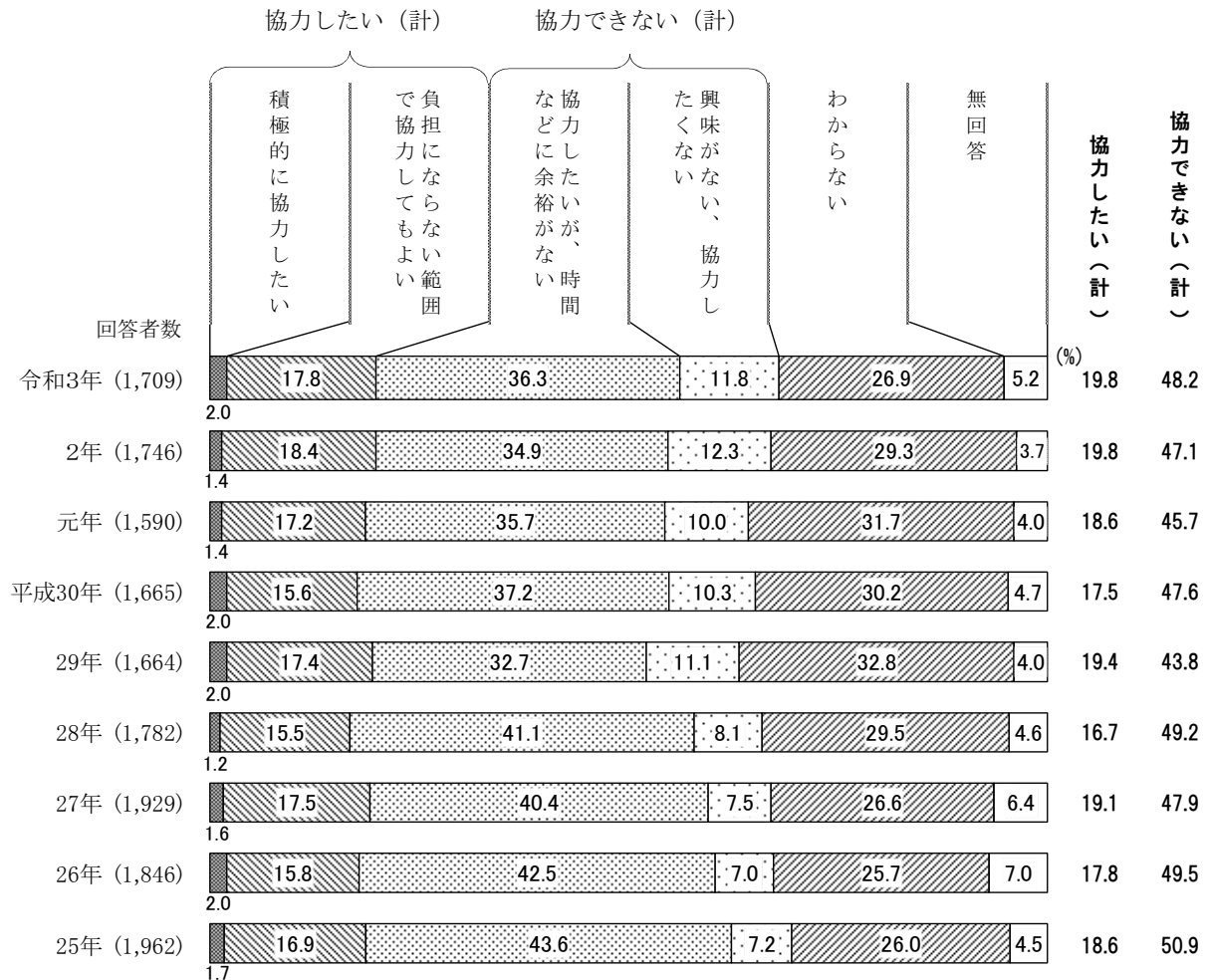


(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■【協力したい】は約2割で、前回から変化なし

問46 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



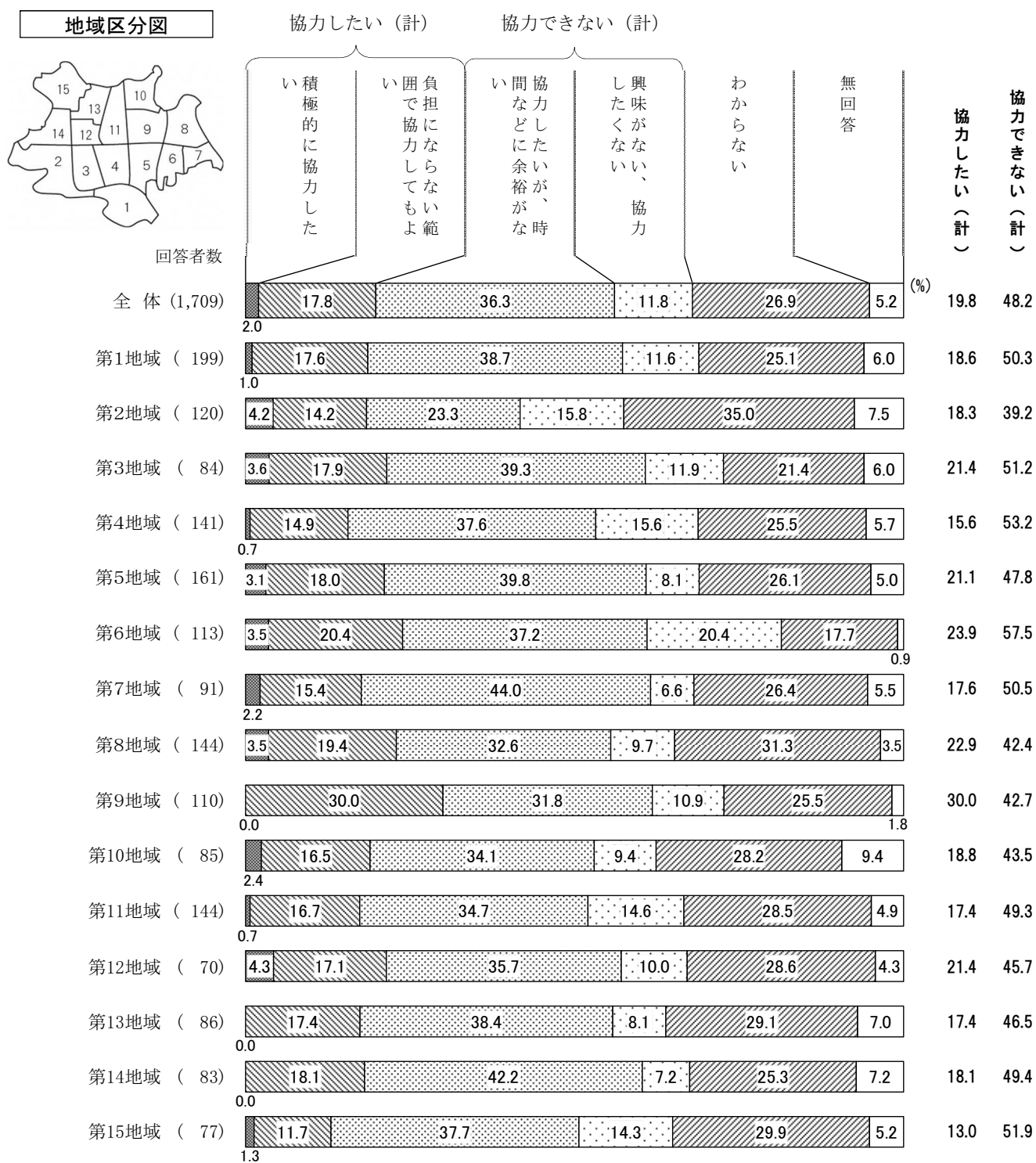
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.0%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」(17.8%)を合わせた【協力したい】は19.8%となっている。一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は36.3%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」(11.8%)を合わせた【協力できない】は48.2%となっている。

経年でみると、前回調査から特に大きな違いはみられない。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【協力したい】は第9地域が30.0%で最も高く、次いで、第6地域（23.9%）と第8地域（22.9%）が2割強から2割台半ば近くで続いている。一方、【協力できない】は第6地域が57.5%と最も高くなっている。

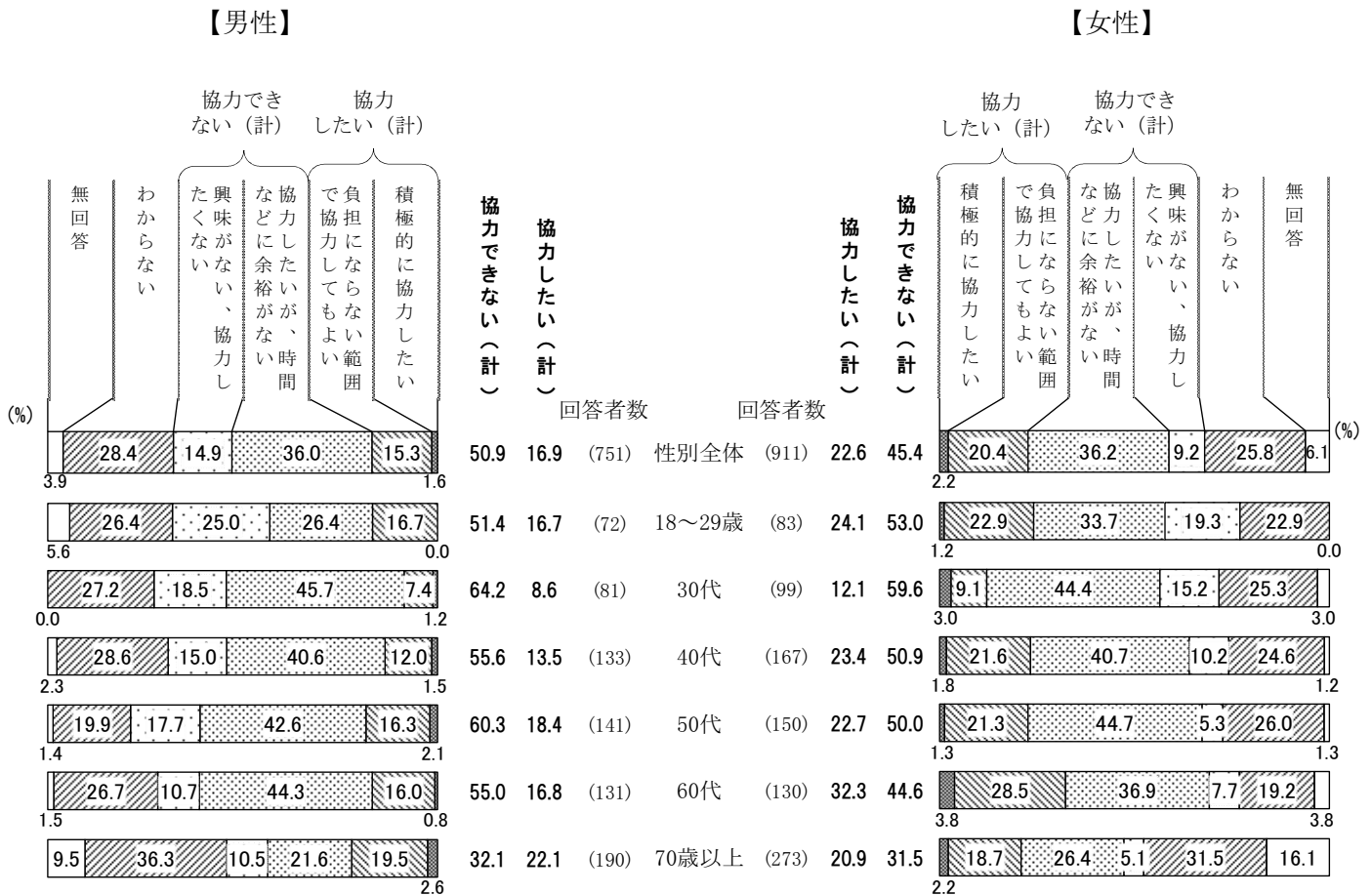
図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



性別でみると、【協力したい】は女性（22.6%）の方が男性（16.9%）より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【協力したい】は女性の60代で32.3%と最も高く、次いで女性の18～29歳で24.1%となっている。一方、【協力できない】は、男性の30代で64.2%と最も高く、次いで男性の50代（60.3%）、女性の30代（59.6%）が6割前後で続いている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

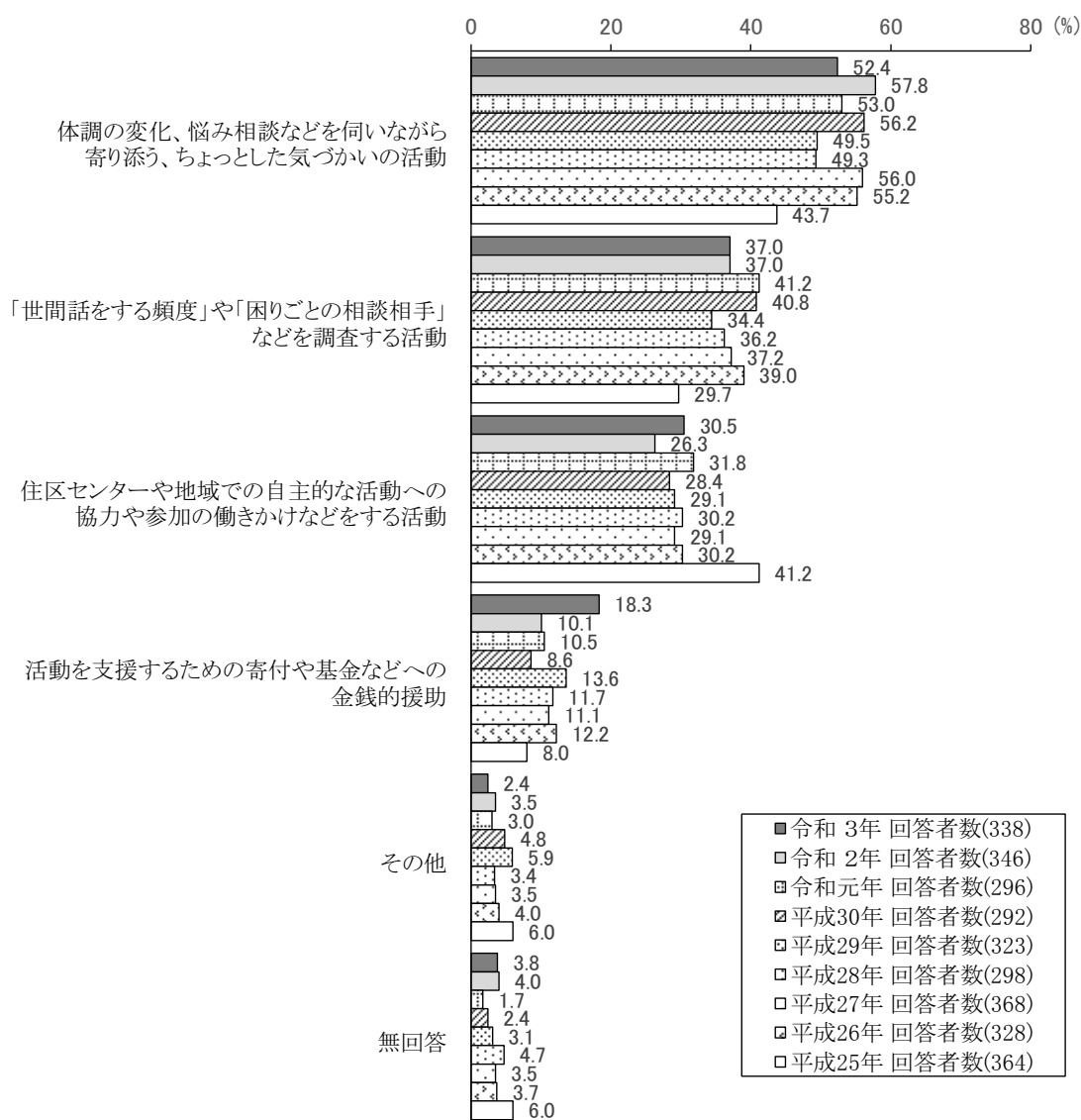


(4) 協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかひの活動” が5割強、“調査する活動” が3割半ば超

問46で「1 積極的に協力～」または「2 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
問46-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

図9-4-1 経年比較／協力意向がある活動内容



平成25年度調査の選択肢について

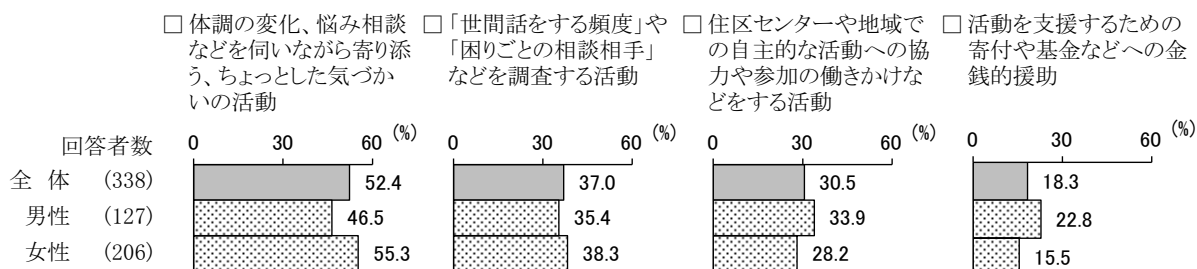
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動＝平成25年度調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年度調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年度調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年度調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聴くと、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が52.4%で最も高く、以下『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動（37.0%）、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（30.5%）、「活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助」（18.3%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないものの、「活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助」は8.2ポイント、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」は4.2ポイント前回調査よりそれぞれ増加する一方で、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は前回調査より5.4ポイント減少している。

性別でみると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は女性（55.3%）の方が男性（46.5%）より8.8ポイント高く、「活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助」では、男性（22.8%）の方が女性（15.5%）より7.3ポイント、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」でも、男性（33.9%）の方が女性（28.2%）より5.7ポイント高くなっている。

図9-4-2 性別／協力意向がある活動内容

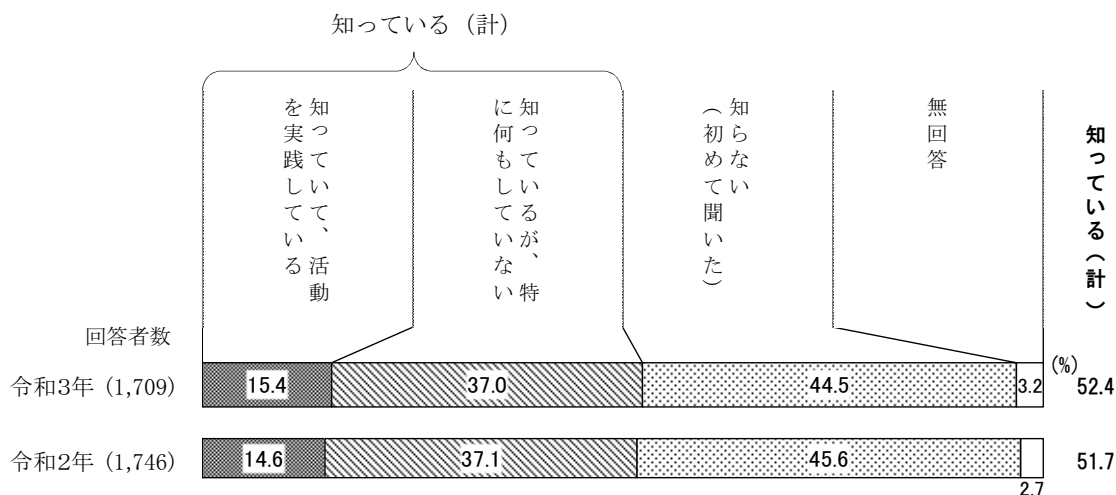


(5)「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

■【知っている】は5割強で、そのうち“活動を実践”は全体の1割台半ば

問47 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないために、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

図9-5-1 前回調査との比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

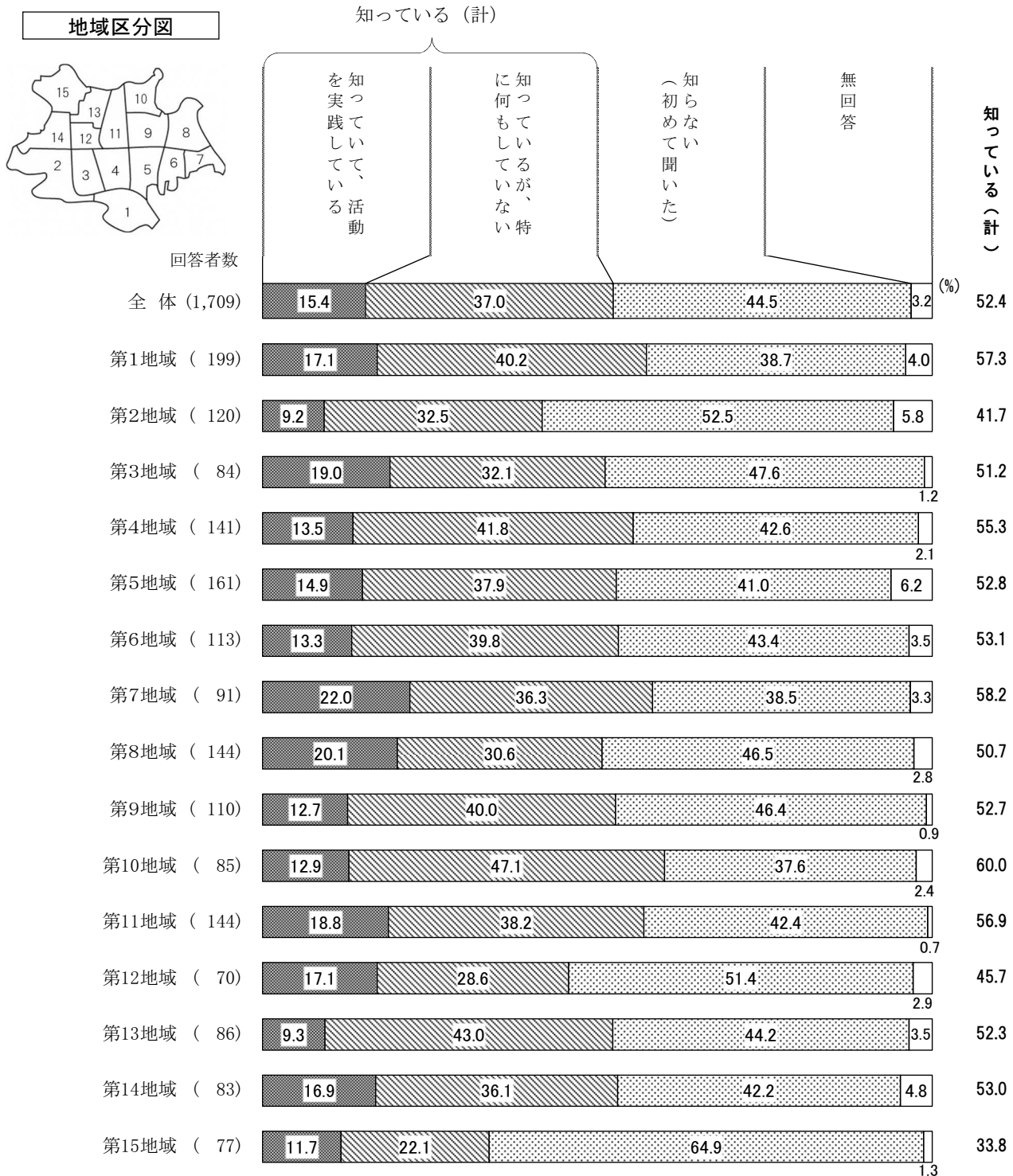


「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は15.4%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（37.0%）を合わせた【知っている】は52.4%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は44.5%となっている。

本設問が新設された前回の令和2年調査との比較では、回答割合に大きな違いはみられない。

地域別でみると、「知っていて、活動を実践している」は第7地域が22.0%で最も高く、これに第8地域が20.1%が続いている。【知っている】でみると、第10地域が60.0%で最も高く、次いで第7地域が58.2%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域で64.9%と他の地域に比べて特に高くなっている。

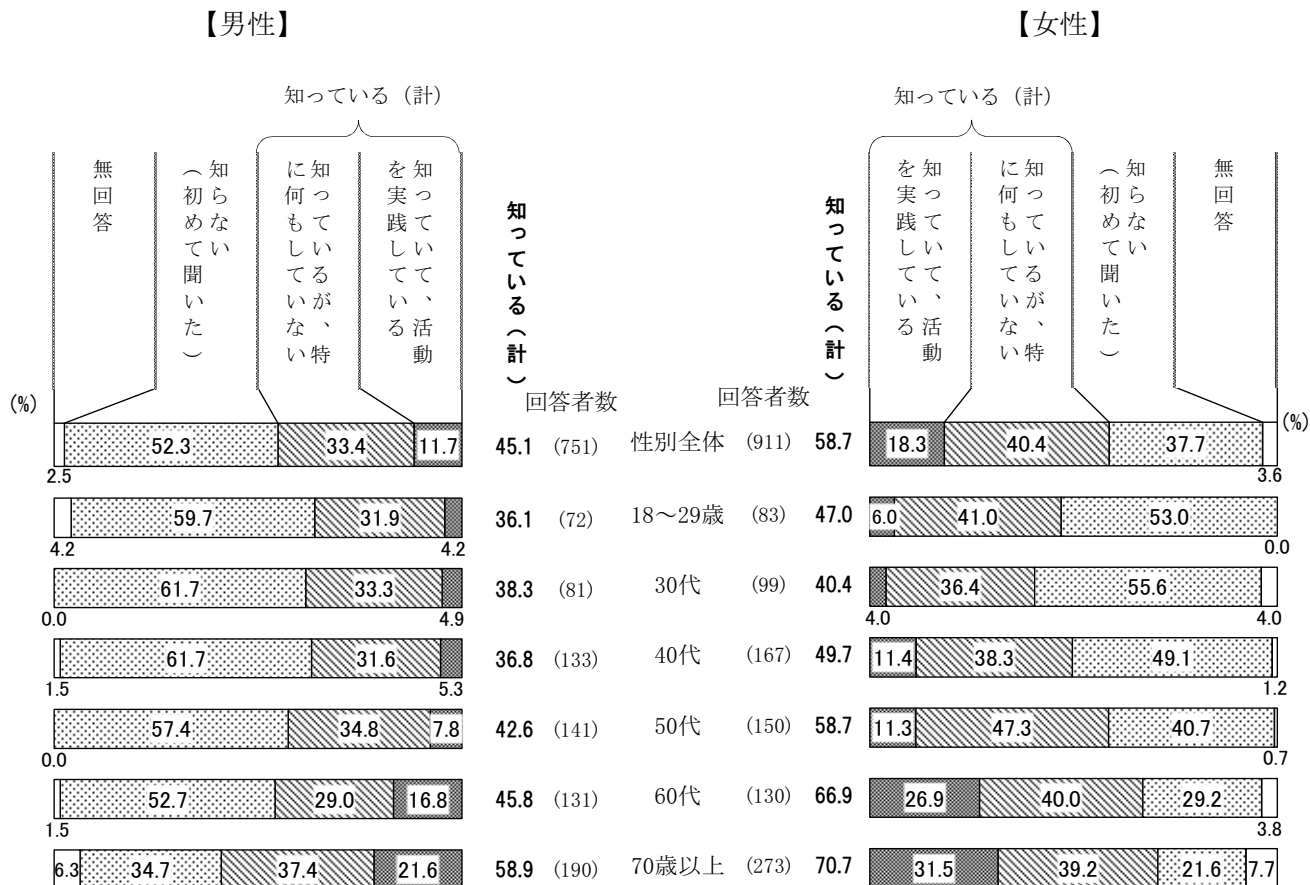
図9-5-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性・年代別でみると、【知っている】は、女性の70歳以上で70.7%と最も高く、次いで女性の60代が66.9%で高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の40代以下が6割前後と他の性・年代層に比べて高くなっている。

図9-5-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



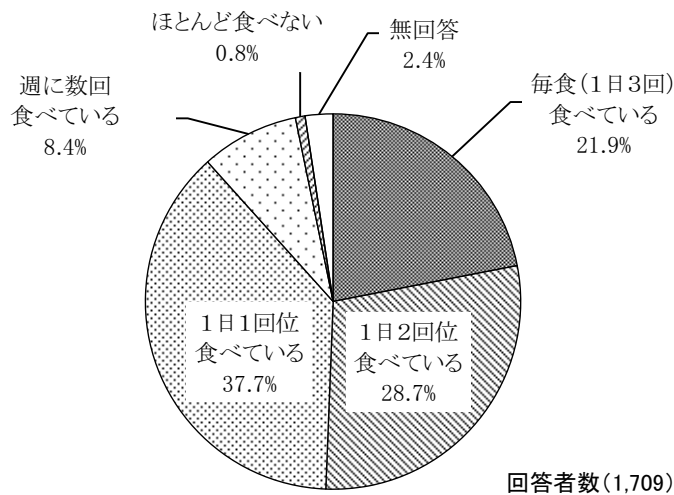
（6）「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

■「毎食（1日3回）食べている」が2割強、「1日2回位食べている」が3割弱

問48 あなたは毎食、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。

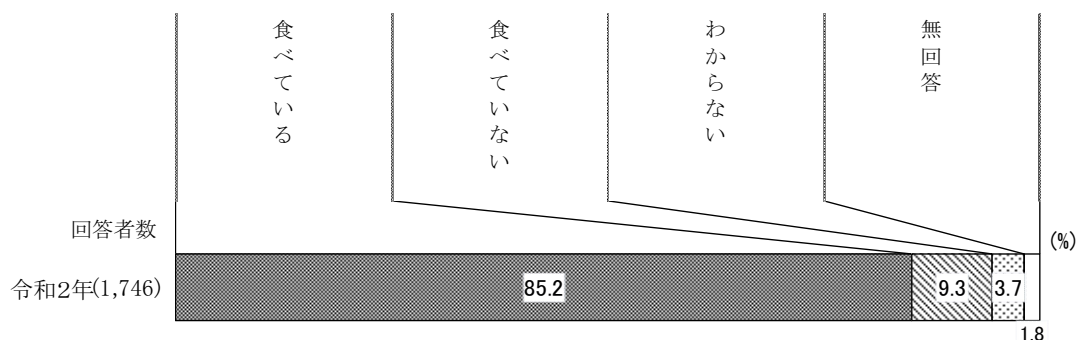
※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

図9－6－1 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況



参考／（令和2年調査）「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

問 あなたは毎食、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）1種類以上食べていますか（○は1つだけ）。

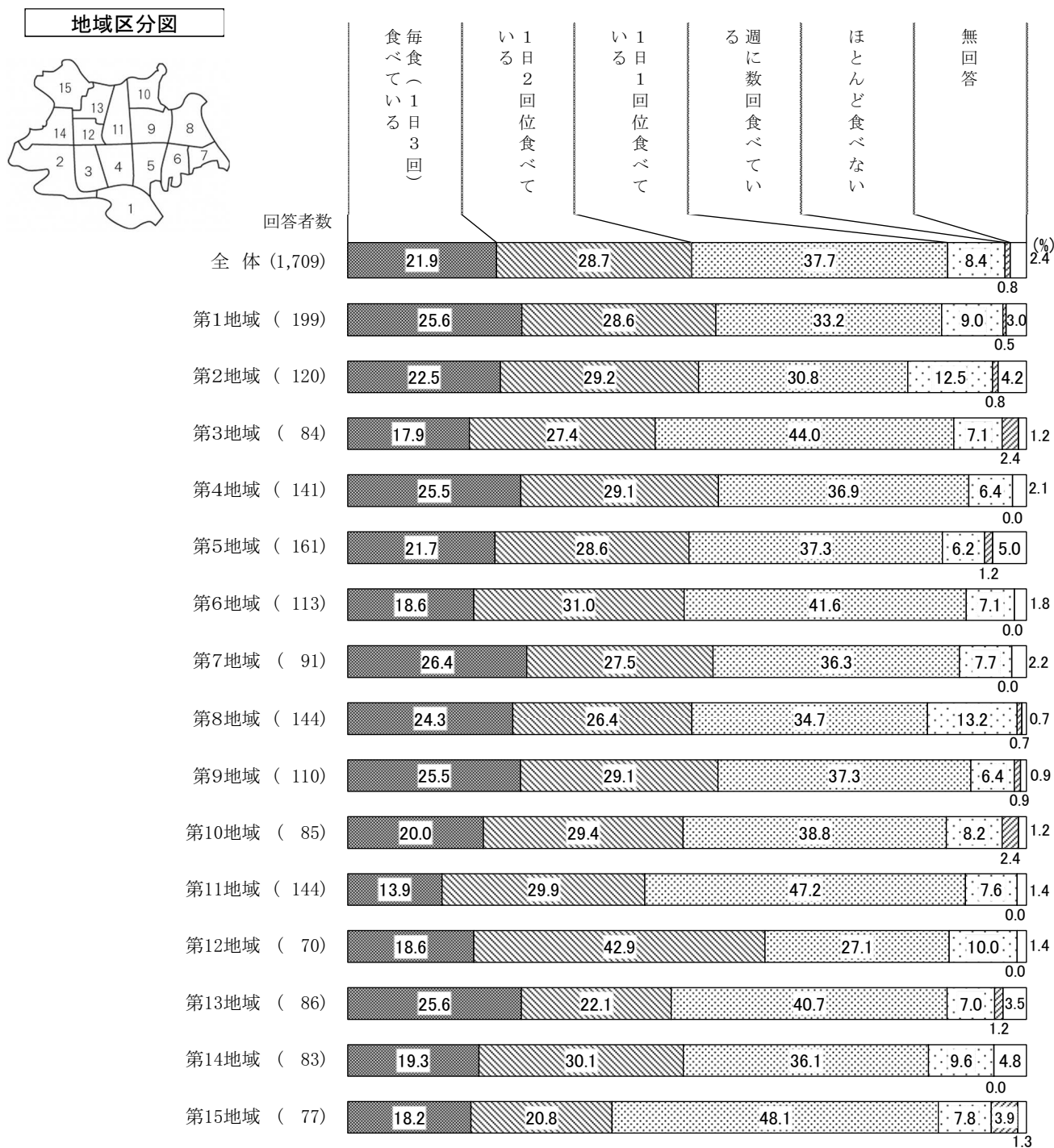


新設となった令和2年調査では、「たんぱく質を多く含む食品」の毎食での摂食状況を聞いたが、今回は摂食の頻度を聞いた。「1日1回位食べている」が37.7%と最も高く、次いで「1日2回位食べている」(28.7%)、「毎食（1日3回）食べている」(21.9%)、「週に数回食べている」(8.4%)、「ほとんど食べない」(0.8%)となっている。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、「毎食（1日3回）食べている」は第7地域が26.4%で最も高く、僅差で第1地域と第13地域（各25.6%）、第4地域と第9地域（各25.5%）が続いている。逆に第11地域が13.9%で他の地域に比べて特に低くなっている。

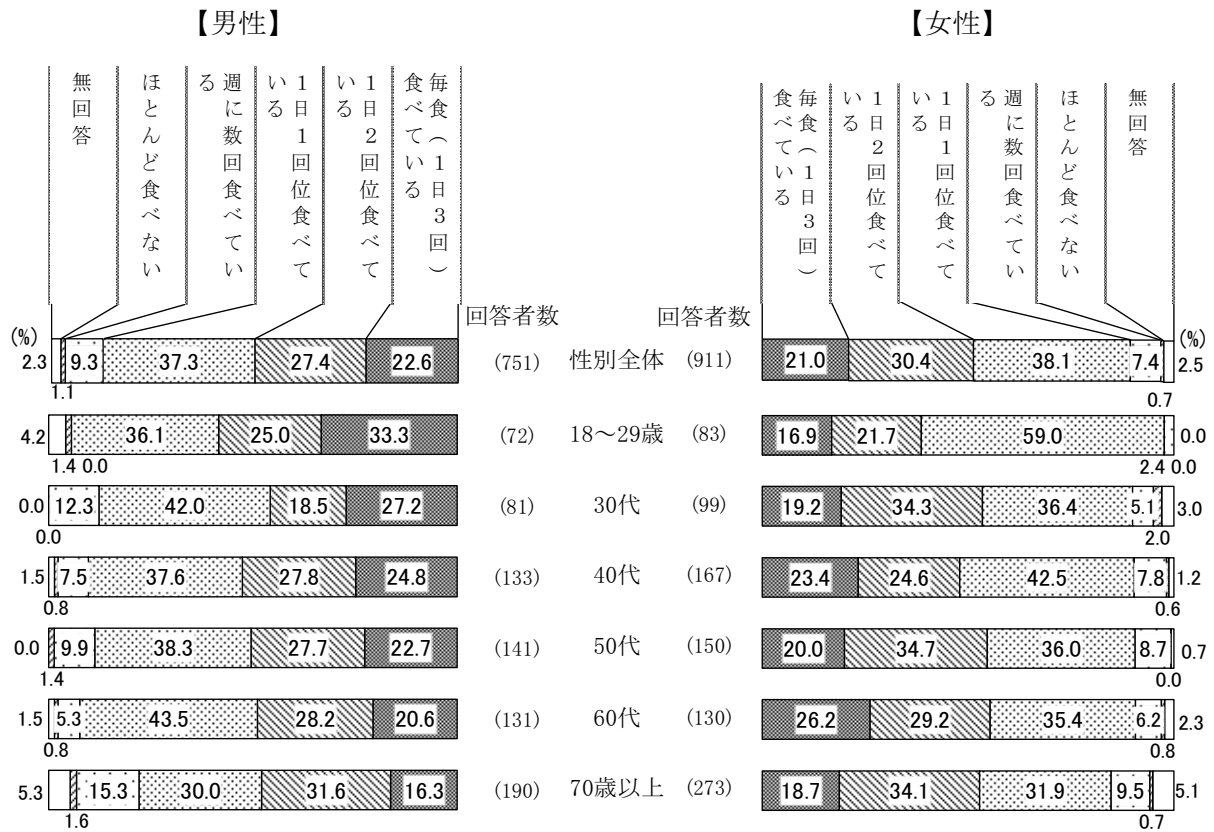
図9-6-2 地域別／「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況



性別でみると、「毎食（1日3回）食べている」は男性（22.6%）の方が女性（21.0%）より僅かに高いものの、特に大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「毎食（1日3回）食べている」は、男性の18～29歳で33.3%と最も高く、次いで、男性の30代（27.2%）、女性の60代（26.2%）と続いている。逆に男性の70歳以上（16.3%）と女性の18～29歳（16.9%）で1割台半ばと低くなっている。

図9-6-3 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

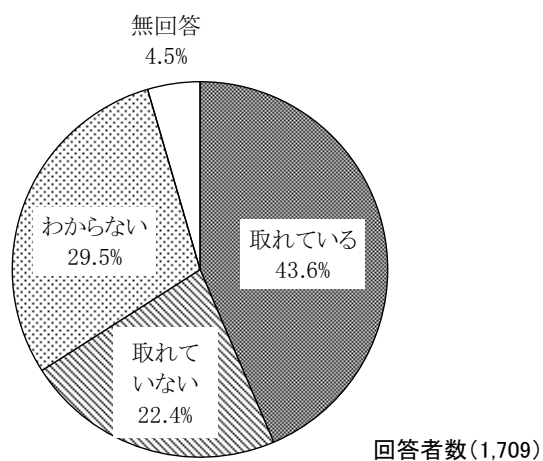


(7) 仕事と仕事以外の生活の調和

■「取れている」が4割台半ば近くで、「取れていない」が2割強

問49 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

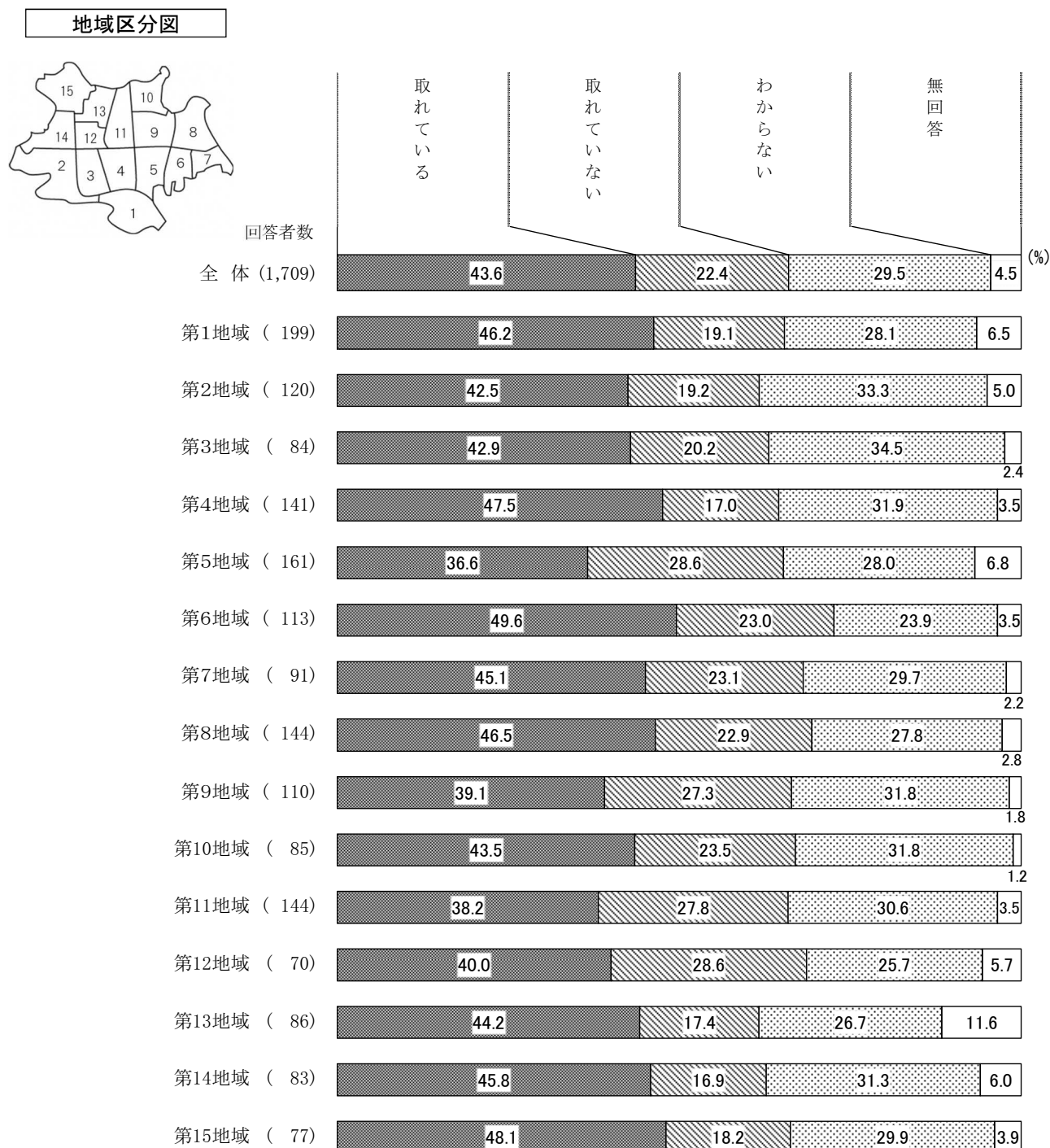
図9-7-1 仕事と仕事以外の生活の調和



仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が43.6%で、「取れていない」(22.4%)を上回っている。一方、「わからない」は29.5%であった。

地域別でみると、「取れている」は第6地域が49.6%で最も高く、次いで、第15地域（48.1%）、第4地域（47.5%）が続いている。一方、「取れていない」は第5地域と第12地域が各28.6%で最も高くなっている。

図9-7-2 地域別／仕事と仕事以外の生活の調和

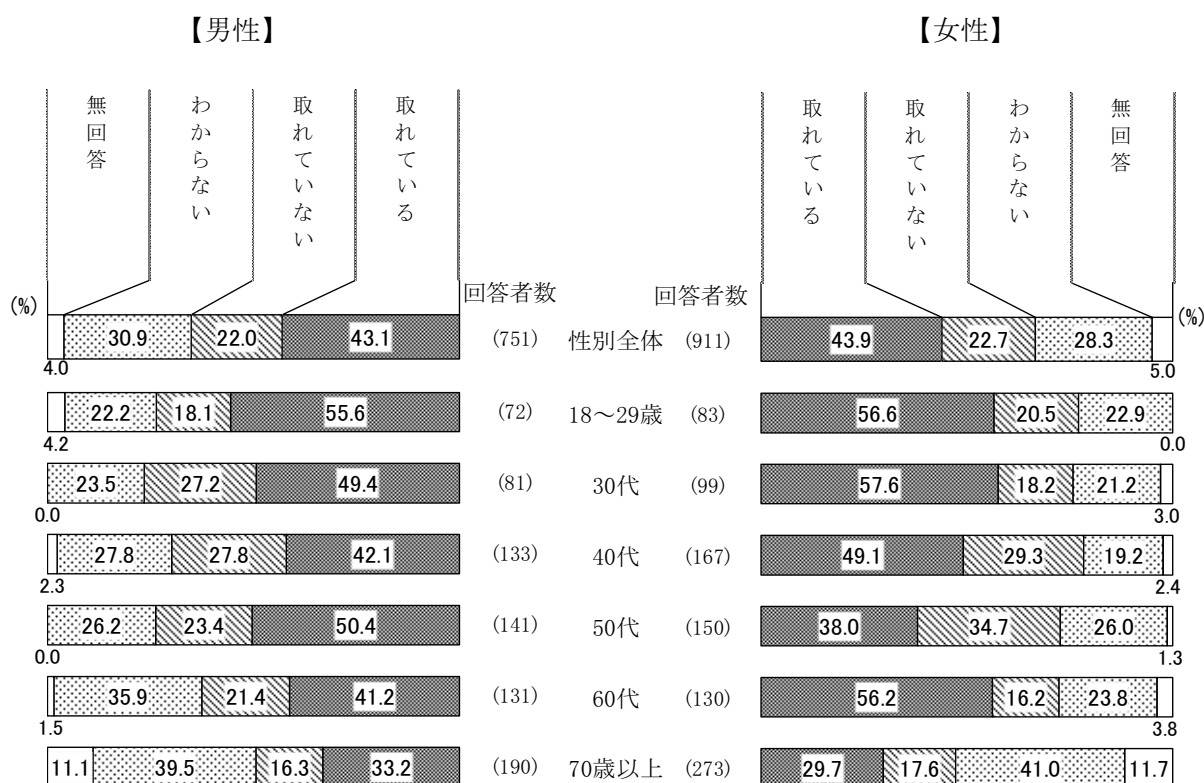


第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性別でみると、「わからない」は男性（30.9%）の方が女性（28.3%）より僅かに高いものの、特に大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「取れている」は女性の30代が57.6%で最も高く、次いで、女性の18～29歳（56.6%）、60代（56.2%）、男性の18～29歳（55.6%）が5割台半ばで続いている。「取れていない」は女性の50代（34.7%）、「わからない」は女性の70歳以上（41.0%）で最も高くなっている。

図9-7-3 性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和

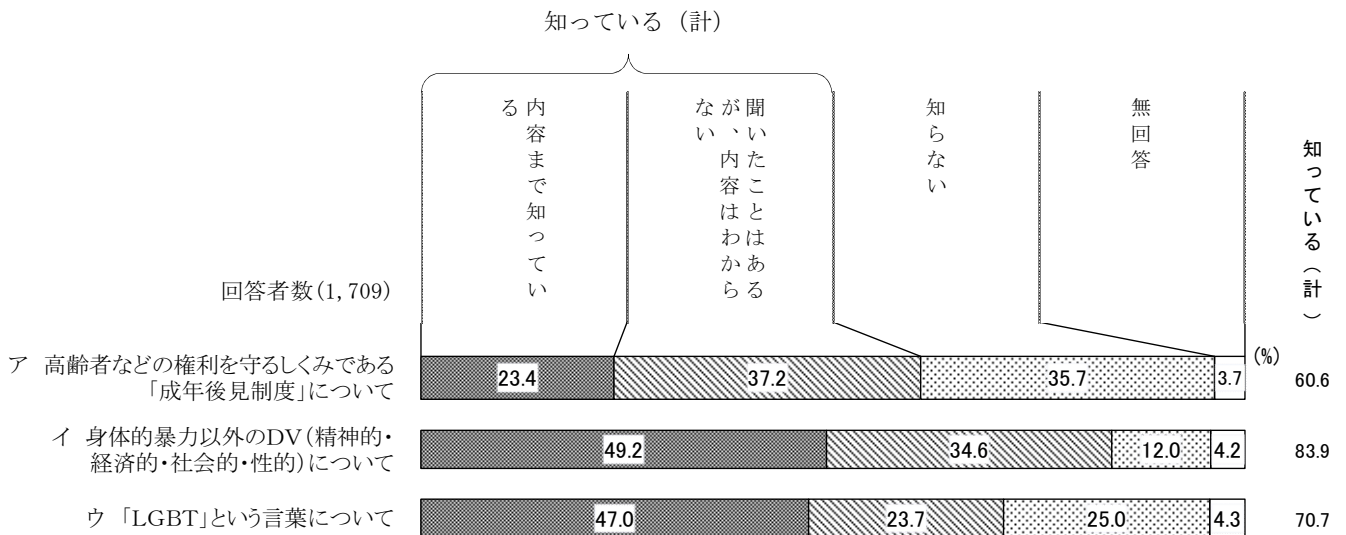


(8)「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

■「身体的暴力以外のDV」が約5割、「LGBT」が4割台半ば超

問50 あなたは、下記のア～ウについて知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図9-8-1 言葉の認知状況



〈成年後見制度〉は、「内容まで知っている」が23.4%で、「聞いたことはあるが、内容はわからない」(37.2%)を合わせた【知っている】は6割となっている。一方、「知らない」は35.7%となっている。

〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が49.2%で最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(34.6%)を合わせた【知っている】は8割台半ば近くとなっている。一方、「知らない」は12.0%となっている。

〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が47.0%と最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(23.7%)を合わせた【知っている】は7割となっている。一方、「知らない」は25.0%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

〈成年後見制度〉の認知状況を性別でみると、【知っている】は女性（65.8%）の方が男性（55.1%）より10.7ポイント高くなっている。

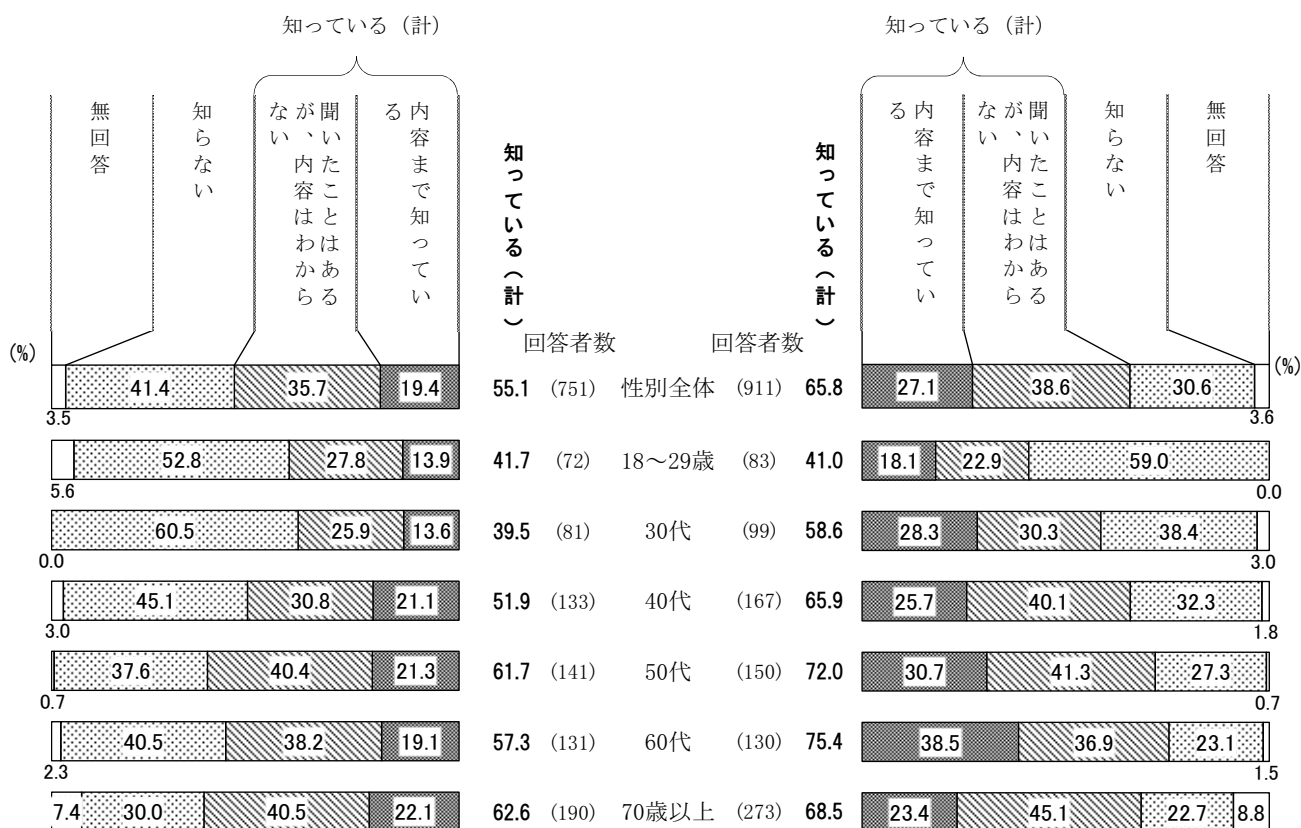
性・年代別でみると、【知っている】は女性の60代が75.4%で最も高く、次いで、女性の50代が72.0%で続いている。一方で、「知らない」は男性の30代が60.5%で最も高く、次いで女性の18～29歳（59.0%）となっている。

図9-8-2-① 性別、性・年代別

／高齢者などの権利を守るしくみである「成年後見制度」について

【男性】

【女性】

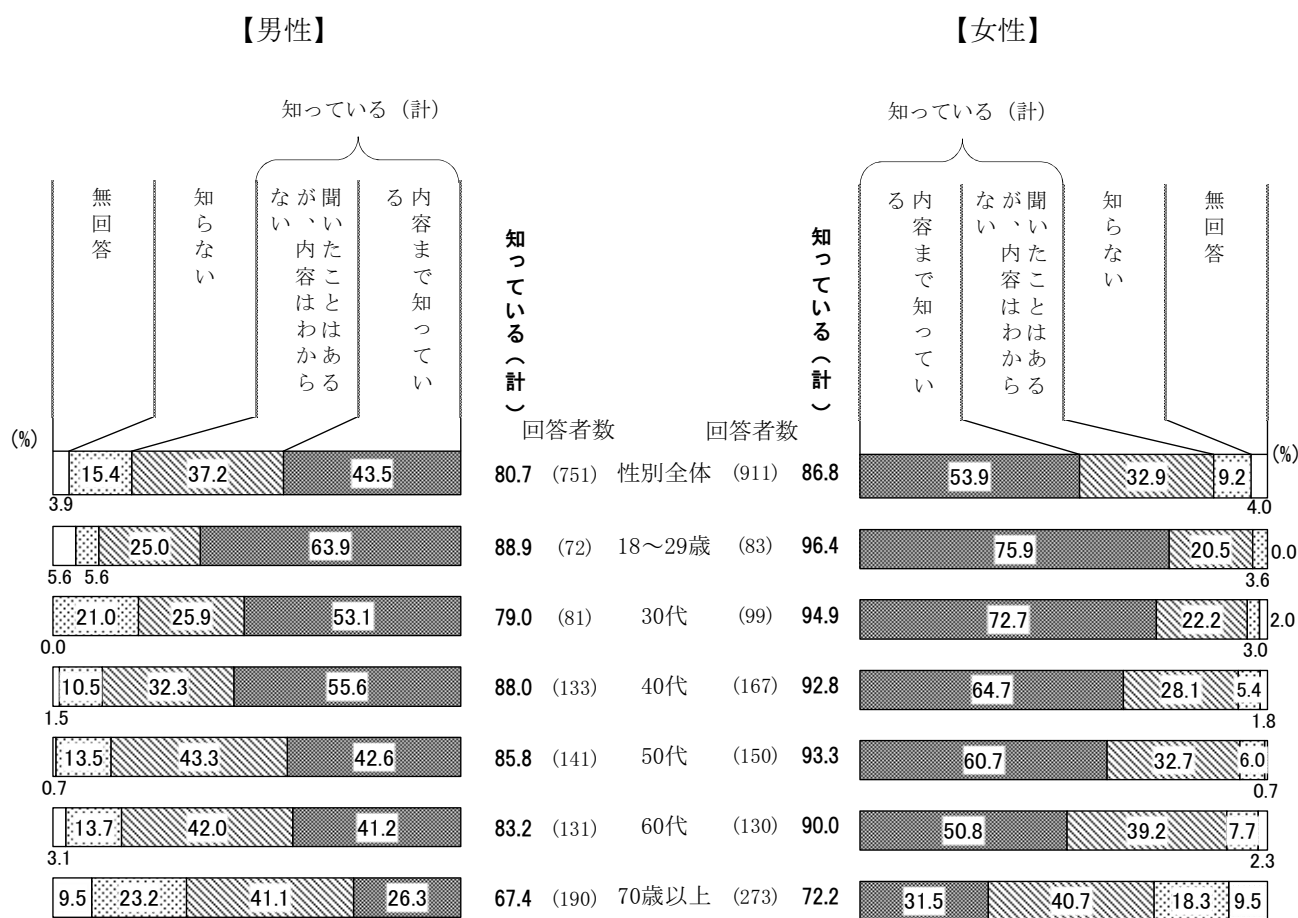


〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別でみると、【知っている】は女性（86.8%）の方が男性（80.7%）より6.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性の18～29歳が96.4%で最も高く、女性の30代～60代でも9割台と高くなっている。一方で、「知らない」は男性の70歳以上が23.2%で最も高く、次いで男性の30代（21.0%）となっている。

図9-8-2-② 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について



第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

〈L G B T〉の認知状況を性別でみると、【知っている】では違いはないが、「内容まで知っている」では女性（49.6％）の方が男性（43.9％）より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性の30代（91.9％）と18～29歳（91.6％）が9割強で高くなっている。一方で、「知らない」は女性の70歳以上が46.9％で最も高く、次いで男性の70歳以上（43.2％）となっている。

図9－8－2－③ 性別、性・年代別／「L G B T」という言葉について

